

幼児の音楽表現力を高めるための合奏

— 「ジングルベル」を例とした合奏アレンジの具体例と方法—

黒田紀子

Ensemble Useful for Improving Music Expression of Young Children

— Detailed Instruction Method for Arrangement of Ensemble Music Using “Jingle Bells” as a Teaching Material —

KURODA Noriko

キーワード：幼児、音楽表現力、合奏、ジングルベル、アレンジ

I 背景

幼稚園教育要領や保育所保育指針における「表現」の領域には、「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりするなどする楽しさを味わう。」⁽¹⁾と記されている。リズム楽器とは、「慣習上の呼び名であり、幅広い打楽器のうち、幼児がリズムを表現するのに用いる、奏法の比較的簡易なものを指すことばだと理解すべきであろう。」⁽²⁾とある。従って、このリズム楽器を用いた合奏教育は、表現領域の内容に合致した教育の一つといえるだろう。岸井は、合奏についてこう述べている。「合奏は個々の演奏する楽器が重なりあい、豊かな響きとなって一人では味わえない音楽の迫力を味わえる。このことは、幼児にとって貴重な体験の一つであり、幼児が表現する能力や鑑賞する態度を身につける基礎となる。」⁽³⁾つまり、合奏は幼児の音楽表現力の基礎となる教育なのである。

合奏教育について、「保育者が教材をアレンジするなどの工夫をして、園生活や幼児の状況に合わせて、表現することを楽しめるようにするとよい。」⁽⁴⁾とあり、歌唱曲などの教材を合奏用にアレンジする能力が保育者には求められている。しかし、保育者養成校（以下「養成校」と記す）に

おける音楽の授業では、合奏について学ぶ時間はごく限られている。そのため、数少ない合奏体験からは基礎力・応用力が得られず、現場環境や幼児の発達に合わせて教材をアレンジする能力の養成には至っていないのが現状である。養成校の教育において佐橋は、「基礎が応用例のないまま、ただ説明されるだけで終われば、学生は基礎を身につけることができない。応用しえるためには、事例はできるだけ具体的でなければならない。」⁽⁵⁾と述べている。保育現場の即戦力となるような基礎から応用への具体的な事例を提示することが必要であろう。そこで筆者は、幼児の合奏教育において教材のアレンジ能力を養成校の学生に習得させるために、アレンジの具体例と方法を提案することを検討した。現在のところ、このような合奏アレンジについての報告は少ない。

II 目的

幼児の合奏教育において、保育者に必要とされる教材のアレンジ能力を養成校の学生に習得させるために、合奏アレンジの具体例と方法を提案することを目的とする。

III 合奏アレンジ

1. アレンジするにあたって

森脇は、アレンジする上での注意事項として次

の5つの事項を挙げている⁽⁶⁾。

- ・ 幼児の発達過程や能力に応じて簡易に編曲し、音楽的に効果を挙げ得るように工夫することが大切である。
- ・ 楽器の種類を多くして複雑化することはよくない。
- ・ いつも全楽器が演奏しているような編曲はよくない。全楽器を用いるのは曲の最高潮点とか、特に強調を要する部分に使用する程度で、楽器の交替や組み合わせの変化による音色の配合を考慮して編曲する。
- ・ あまり技巧に走らぬこと。音楽の基本的な能力(拍子感、リズム感、音色感)の体得に役立つように考慮する。
- ・ 常に幼児の発達過程に応じて体系的な編曲をする。

これらの注意事項を念頭に置いてアレンジすることが重要であろう。

さらに、森脇はアレンジの実際について、「楽曲の選択」「使用楽器の決定」「リズム型と楽器の組み合わせ」を下記のように示している⁽⁷⁾。

楽曲の選択

合奏に適する曲を選ぶ。曲がリズムカルであることや、歌詞を除いても曲節が音楽的で子供の感をひくもの。

使用楽器の決定

幼児の年齢や曲の性格を考えて、それに適する

楽器を決める。

- ・ 勇壮な行進曲なら、大太鼓、小太鼓、タンブリン、カスタネット、シンバル等
- ・ 静かな曲なら、トライアングル、鈴等
- ・ 軽快な曲なら、タンブリン、カスタネット等

リズム型と楽器の組み合わせ

- ① 楽曲の性格や楽器の性能を考え、変化のある音色の配合と効果的な楽器の組み合わせをなす。
 - ・ 旋律の通りのリズムを奏するのに適する楽器は、カスタネット属
 - ・ 拍子の強拍部を奏するのに適する楽器は、大太鼓、シンバル、トライアングル、タンブリン
 - ・ 拍子の弱拍部を奏するのに適する楽器は、小太鼓、タンブリン、カスタネット属、拍子木、ハンド木魚、ウッドブロック
- ② 幼児の心理的、身体的発達程度、並びに音楽的発達程度の二方面から編曲を考える。
- ③ 各楽器のリズム型は、出来るだけ単純にして、音楽的效果のあがるように工夫する。
- ④ 音量のバランスを考えて楽器の数を加減する。

以上の内容を踏まえて、アレンジの具体例を提案した。

2. アレンジの具体例

(1) 使用楽曲

合奏は季節のイベントとして行われることも多いため、クリスマスから「ジングルベル」(譜例1)⁽⁸⁾を例に挙げることにした。

(譜例1)「ジングルベル」



(2) 使用楽器

楽曲の内容に最適な楽器を選択することが重要であるが、実際は保育現場の保有楽器の中から選択するため、多くの現場で適用できるよう4つの

打楽器「タンバリン」「カスタネット」「鈴」「トライアングル」を用いることにした。これらは幼児にも演奏が平易で、合奏の導入としてよく扱われるものである。尚、各楽器の数は場所の広さや

響き、打ち方によって変わるため、ここでは特に指示しないこととする。

(3) アレンジのポイント

以下の4つの事項をアレンジのポイントとした。

- ① 幼児の発達段階に応じてリズムパターンの数や難易度を調整する。
- ② 曲想や曲調などに合った楽器の組み合わせを考え、それぞれの楽器の音色を楽しめるようにする。
- ③ 曲想や曲調、拍子、旋律などをもとにリズムや音色を考える。
- ④ 旋律の繰り返し部分などはリズムを変化させる。

(4) 事例

「ジングルベル」をピアノの簡易伴奏付きの合奏曲としてアレンジした。それを楽譜に起こしたものが以下に示す楽譜【ジングルベル】(譜例2)である。さらに、【ジングルベル】よりやや難易度を低くした事例【ジングルベルA】(譜例3)と、やや難易度を高くした事例【ジングルベ

【ジングルベル】

- ・リズムパターンは4つである。

<第3-6小節> <第7-10小節> <第11・13・15・17小節> <第12・14・16小節>

【ジングルベルA】

- ・リズムパターンは3つである(第7-10小節は第3-6小節と同様のためリズムパターンの数に含めていない)。

ルB】(譜例4)を作成した(文末の楽譜を参照のこと)。これらは、幼児の発達段階に即したアレンジを行えるよう、アレンジの難易度を変える方法を分かりやすくするためである。尚、ピアノ伴奏譜はそれぞれ共通の簡易伴奏として編曲した。

IV 考察

1. アレンジの詳細と方法

作成した3つの事例【ジングルベル】【ジングルベルA】【ジングルベルB】について、Ⅲ-2で述べた4つのアレンジポイントを基にして考察したい。

- ① 「幼児の発達段階に応じてリズムパターンの数や難易度を調整する」

リズムパターンの数と内容は以下の通りである。難易度を変えるアレンジ方法を明瞭にするため、【ジングルベルA・B】を【ジングルベル】と比較しながら述べていく。尚、曲の終わりなどの例外的なリズムはパターンに含めていない。

- ・【ジングルベル】の第3-6小節にある鈴のパートを省き、簡易になっている。
- ・より簡易にするため、第7-10小節は第3-6小節と同じリズムを用いている。

この楽譜は、4つの小節に分かれています。各小節の楽器の演奏パターンは以下の通りです。

- 鈴**: 第3-6小節は静音、第7-10小節は静音、第11・13・15・17小節は静音、第12・14・16小節は連続した音（トレモロ）を奏する。
- カスタネット**: 各小節、1拍目と3拍目に四分音符を奏する。
- タンバリン**: 各小節、2拍目と4拍目に四分音符を奏する。

【ジングルベルB】

- ・リズムパターンは4つである。
- ・トライアングルを追加している。
- ・第3 - 10小節のカスタネットに八分音符を増やし、リズムに躍動感を与えている。

- ・第11小節以降のサビ（聞かせどころ）はタンバリンとカスタネットの音数を増やし、賑やかさを加えている。また、トライアングルのトレモロ奏法とともに、鈴とカスタネットを加えて音の立体感を表現している。

この楽譜は、4つの小節に分かれています。各小節の楽器の演奏パターンは以下の通りです。

- トライアングル**: 第3-6小節は1拍目と3拍目に四分音符を奏する。第7-10小節は静音。第11・13・15・17小節は静音。第12・14・16小節は連続した音（トレモロ）を奏する。
- 鈴**: 第3-6小節は静音。第7-10小節は2拍目と4拍目に四分音符を奏する。第11・13・15・17小節は静音。第12・14・16小節は1拍目と3拍目に四分音符を奏する。
- カスタネット**: 各小節、1拍目と3拍目に八分音符を奏する。
- タンバリン**: 各小節、2拍目と4拍目に四分音符を奏する。

②「曲想や曲調などに合った楽器の組み合わせを考え、それぞれの楽器の音色を楽しめるようにする」

今回は4つの打楽器に限定して作成したが、楽器の選択肢が他にある場合は、曲想や曲調などに相応しいものを選択する。例えば、元気でリズムカルな曲には太鼓など音量のある楽器を選択し、ゆったりとした静かな曲には温かみのある音色の楽器を選択するとよいだろう。曲調の変化に伴って楽器を変えるのも効果的である。

全ての楽器が同時に鳴り続けると騒がしくなってしまうため、曲のクライマックスや曲の最後などに限定するとよいだろう。特に合奏の導入時は音数を減らし、各楽器の音色を聴き分けられる余裕を持たせたい。

③「曲想や曲調、拍子、旋律などをもとにリズムや音色を考える」

第11小節以降のサビ（聞かせどころ）の部分

は、高揚感や賑やかさを出すために音数を増やし、リズムに動きを加えているのに対し、曲の冒頭は落ち着いた雰囲気になるように変化をつけている。

4拍子の基本は強・弱・中強・弱であるので、1拍目の強拍部には3つの打楽器の中で最も音量の出しやすいタンバリンを配置している。2、4拍目の弱拍部には軽やかなカスタネットや鈴を用いるなど、拍子の強拍・弱拍を意識して考えると良いだろう。

④「旋律の繰り返し部分などはリズムを変化させる」

第3小節以降と第7小節以降の同じメロディー部分では、【ジングルベル】や【ジングルベルB】に示したように、リズムを変化させると面白さが出せるだろう。一方で、合奏の導入時などは幼児の負担にならないよう、【ジングルベルA】に示したように同じリズムを繰り返す方が良いと考えられる。

2. より簡易にアレンジする

既成の合奏教材を用いる際に問題となるのは、難易度が高いことであろう。そこで、先程の3つの事例それぞれについて、より簡易にアレンジするための一例を次に述べていくこととする。

【ジングルベル】

- ・第7 - 10小節を第3 - 6小節と同じリズムとして代用できる。
- ・第11小節以降のカスタネットの八分音符2つが難しい場合は、四分音符1つとして代用できる。

【ジングルベルA】

- ・鈴のトレモロ奏が難しい場合は、四分音符4つのリズムとして代用できる。

【ジングルベルB】

- ・カスタネットの八分音符2つが難しい場合は、四分音符1つとして代用できる。

このようにアレンジの具体例を示すことは、学生の基礎力・応用力を高める上で重要であろう。アレンジはこの他にも様々な方法が考えられるため、今回の方法は一提案として捉えていただきたい。

幼児に合奏教育をするにあたって、合奏の教育的意義について把握しておくことは重要であると考えられる。次に考察していきたい。

3. 合奏の教育的意義

リズムは音楽の三要素の一つであるが、コダーイは「リズム教育は保育園の真の領域である。」⁽⁹⁾と述べているように、幼少期のリズム教育の重要性を説いている。桶谷らは「音楽におけるリズムは、音楽の諸要素のなかでもっとも根源的なものであるといえる。幼児期におけるリズム感の育成は、きわめて効果的」⁽¹⁰⁾と述べている。先の論文⁽¹¹⁾でも述べたように、リズムは音楽の基礎であり、リズム感を養うことは音楽表現の基盤を構築することに相当するのである。諸井らは「音楽をきいて歩いたり、おどったりすることや、リズム楽器を打つことなどは、リズムを身体で感じ、身体で表現していることで、リズム感発達の上か

らも、大いに奨励したい」⁽¹²⁾、桶谷らは「子どもにとって種々のリズム体験は、個々の子どもの気持ちの高まりと豊かな感性の体得につながる。」⁽¹³⁾と述べている。つまり、合奏にはリズム感を養い、精神を高揚させ感性を磨くといった教育的意義があるといえる。

諸井らは、「幼稚園や保育園での音楽教育は、常に音楽的能力を高めるといえる点が根本において考えられていなくてはならない」⁽¹⁴⁾と述べている。その音楽的能力とは、「大きく分けると表現能力と感受能力の二つ」であり、それぞれについて、「表現能力というのは、弾く、おどる、リズム楽器を打つ等であり、感受能力とは、音楽美を感じる能力で、音高感・リズム感・和音感・強弱感・速度感・音色感・音楽的把握力・音楽的記憶力の総合されたものである。」⁽¹⁵⁾と述べている。これら8つの能力「音高感・リズム感・和音感・強弱感・速度感・音色感・音楽的把握力・音楽的記憶力」は、合奏教育により養われる能力である。即ち、合奏は表現能力と感受能力の両方を要求されるものであり、音楽的能力を高めるための優れた教育といえるだろう。

桶谷らは、「幼児に合奏体験をさせることは、合奏を通して相互の音楽的役割の認識や音楽の仕組みを感知させるとともに、仲間意識や社会性の育成にも役立つと考えられる。」⁽¹⁶⁾と述べている。メロディー担当、リズム担当などそれぞれの役割を認識し、音楽の諸要素（リズム・メロディー・ハーモニー）や曲想、曲調などを感じ取ることで音楽的発達を促すであろう。集団の中で共感し協調するなど他人に意識を向けることは、社会性の基礎を育むことに繋がると考えられる。

このように、合奏はリズム感や感性、表現力といった音楽的発達に加え、社会性などの人間的成長においても有益であるといえるだろう。保育における音楽教育の一環として合奏を取り入れて欲しいと切に願う。

V 結論

合奏教育において幼児の音楽表現力を高めるためには、保育者に必要とされる、教材のアレンジ能力を養成校の学生に習得させることが重要である。そのためには、保育現場の即戦力となるような基礎から応用への具体的な事例を提示することが必要である。「ジングルベル」を例に挙げ、幼児の発達に即したアレンジを行えるよう、合奏アレンジの具体例を3つの難易度別に作成し、その事例を基にアレンジの方法を提案した。合奏には、幼児の音楽的発達に留まらず人間形成の基礎に資するという教育的意義があり、保育現場の環境や幼児の発達段階に応じたアレンジ・指導によって、より良い音楽教育を行えるだろう。

- (10) 桶谷弘美〔他〕共著『「音楽表現」の理論と実際』音楽之友社、1997年、p.76
- (11) 黒田紀子「幼児に基礎的な音楽表現力を指導できる保育者の養成を目指して—打楽器を用いて保育者養成校学生のリズム感を養う指導法—」『小池学園研究紀要』第18号、2020年、pp.75-81
- (12) 諸井三郎、酒田富治共著『保育のための音楽教育』恒星社厚生閣、1966年、p.167
- (13) 桶谷弘美〔他〕共著、前掲書、p.76
- (14) 諸井三郎、酒田富治共著、前掲書、p.164
- (15) 諸井三郎、酒田富治共著、前掲書、p.164
- (16) 桶谷弘美〔他〕共著、前掲書、p.94

黒田紀子（埼玉東萌短期大学非常勤講師）

引用・参考文献

- (1) 文部科学省『幼稚園教育要領』2017年
厚生労働省『保育所保育指針』2017年
- (2) 井口太編著『最新・幼児の音楽教育』朝日出版社、2018年、p.114
- (3) 岸井勇雄、大久保稔編著『音楽（音楽リズム）』チャイルド本社、1984年、p.156
- (4) 神原雅之、鈴木恵津子監修・編著『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』教育芸術社、2017年、p.17
- (5) 佐橋晋「保育者養成の音楽教育」『音楽教育の研究—理論と実践の統一をめざして—』（浜野政雄監修）音楽之友社、1999年、p.327
- (6) 森脇中『リズム楽器の教え方』白眉音楽出版社、1956年、pp.76-77
- (7) 森脇中、前掲書、pp.77-78
- (8) 神原雅之、鈴木恵津子監修・編著、前掲書、p.91
- (9) コダーイ・ゾルターン著、中川弘一郎編訳『コダーイ・ゾルターンの教育思想と実践：生きた音楽の共有をめざして』全音楽譜出版社、1980年、p.160

(譜例2) 【ジングルベル】

ジングルベル

J.L.ピアポント 作曲
Noriko Kuroda 編曲

The musical score is arranged in four systems. Each system contains staves for Bells (鈴), Castanets (カステネット), Tambourine (タンバリン), and Piano (ピアノ). The key signature is one flat (B-flat) and the time signature is 4/4. The score includes various musical notations such as rests, eighth notes, and chords. The first system covers measures 1-5, the second system covers measures 6-10, and the third system covers measures 11-14, which includes a first and second ending for the bells.

(譜例3) 【ジングルベルA】

ジングルベルA

J.L.ピアポント 作曲
Noriko Kuroda 編曲

The musical score is arranged in three systems, each with four staves. The instruments are: 鈴 (Bells), カスタネット (Castanets), タンバリン (Tambourine), and ピアノ (Piano). The key signature is one flat (B-flat) and the time signature is 4/4. The score includes repeat signs, first and second endings, and trills.

System 1 (Measures 1-5): The piano part features a rhythmic accompaniment with chords in the left hand and a melodic line in the right hand. The percussion instruments enter in measure 3.

System 2 (Measures 6-10): Continues the piano accompaniment and the rhythmic patterns of the percussion instruments.

System 3 (Measures 11-15): Features a first ending with a trill in the bell part, followed by a second ending. The piano part concludes with a final chord.

(譜例4) 【ジングルベルB】

ジングルベルB

J.L.ピアポント 作曲
Noriko Kuroda 編曲

The first system of the musical score for 'Jingle Bells B' consists of five staves. From top to bottom, they are: Triangle (トライアングル), Bell (鈴), Castanets (カステネット), Tambourine (タンバリン), and Piano (ピアノ). The time signature is 4/4. The piano part is written in a grand staff with a key signature of one flat (B-flat). The melody for the triangle, bell, and tambourine parts is a simple eighth-note pattern: G4, A4, B4, G4. The castanets play a rhythmic accompaniment of eighth-note pairs. The piano accompaniment features a steady eighth-note bass line in the left hand and a melody in the right hand that follows the main tune.

The second system of the musical score continues the piece from measure 6. It includes the same five staves as the first system: Triangle, Bell, Castanets, Tambourine, and Piano. The musical notation continues with the same rhythmic and melodic patterns established in the first system, maintaining the 4/4 time signature and the piano accompaniment.

The third system of the musical score begins at measure 11 and concludes the piece. It features the same five staves: Triangle, Bell, Castanets, Tambourine, and Piano. The piano part includes a first ending (1.) and a second ending (2.). The first ending leads back to the beginning of the piece, while the second ending provides a final resolution. The notation includes dynamic markings such as *tr* (trill) and repeat signs.

